

活用事例	7 負傷者が出た場合の搬送訓練 【特色】椅子を担架代わりにして負傷者を搬送する訓練		
学校名	下関市立滝部小学校		
日時	平成25年1月17日(木) 10:00～:10:45		
場所	運動場及びランチルーム	参加者	児童・教職員及び防災士

1 訓練のねらい

- (1) 児童が地震発生直後の身の守り方と安全に素早く避難する方法を知り、自分の生命を守ることができるようにする。
- (2) 地震発生時における教職員の役割分担が組織的に機能するようにする。

2 訓練の概要

- (1) 8:25 事前指導(担任)
学級で訓練を予告し、以下の内容を指導。
 - ①本日、地震対応避難訓練がある。
 - ②はじめの揺れを、より安全な場所で頭部を保護してやり過ごす。
 - 机の下
 - 狭い部屋
 - 重量落下物のないところ 等
 - ③揺れが収まったら、次の点に留意して指定場所に避難する。
 - 頭部と足裏・手の保護
 - 窓や屋根・垂れた電線や地割れから離れた経路
- (2) 10:00 地震発生(教頭:放送)
放送で地震音を30秒程度流す。

- (3) 10:01 緊急放送(教頭)
⇒避難開始(担任)

何も持たず、下靴に履き替えて(足を保護するため)避難。

歩けないけが人が出た場合、児童4人で椅子を担架代わりに運ぶ訓練も6年生で行う。



怪我をして歩けなくなった児童を運ぶ訓練

- (4) 点呼
児童を整列させ、点呼を取り、行方不明者及び負傷者の確認後、教頭→校長に報告。
- (5) 10:10 ランチルームに移動
- (6) 10:15～10:40
防災士の方から話を聞く。



身近にある断層（菊川断層）の話



地震時の留意点

★逃げた後は戻らない

★自分の命は自分で守る

(7) 10:40～10:45

お礼の言葉&講評（校長）

3 訓練の成果と課題

9月に防災士の方にご来校いただき、ご指導いただいたことを受け、避難場所の変更・負傷者発生時の訓練を追加実施したことは、良い訓練となった。専門家である防災士さんから、地震が起こる可能性の話や校区周辺の地図を見ながら具体的に聞いたことや、地震の際の留意点についても専門家の立場からお話いただけたことは良かった。訓練を見られての気づきとして、下記の点を指摘された。今後生かしていきたい。

① 放送について

「訓練。訓練。」と2回繰り返した後、緊急放送を入れるとよい。

② 教職員の動き

- * 児童は黙って避難させるが、教職員は誘導指示するので、声を出して良い。
- * 教職員が先導という形でなく、後ろから全体の動きや状況を見ながら指示を出す方がよい。
- * 人数確認報告は、大きな声を出して行い、児童に人員把握とはどんなのかを見せておくことも大事。また、残留者の確認をし、報告するようしておくこと。

③ 準備

- * 担任は出席簿等、確実に人数把握、氏名確認ができる物を持って出る。
- * 教頭（不在の場合、職員室教職員）が、全員の名簿やチェック表・メガホン等をリュックサックに入れて、持つて出る。
- * 養護教諭は、救急箱や児童の保健連絡票等、非常時に必要な物をリュックサックに入れておいて、すぐ持ち出せるようしておく方がいい。（両手が空く方が、対応しやすいため。）

④ その他

- * 管理職がいる場合でも、いないことを想定した訓練をし、誰でも対応できるようにしておくことと良い。
- * 今地震が起こったら何をするかを考えさせ、シミュレーションをしておくことと非常時に動けるようになる。
- * 避難訓練は、年間何度やってもいいので、何回か繰り返し意識付けしていくことが大事である。
- * 日常生活の中で、周囲の状況に気をつけるよう、具体的な声かけをしていくことが防災教育となる。